

日本におけるオープン・アクセスの 動向

加藤信哉

山形大学附属図書館

skato@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

オープン・アクセスとは

- 新しい学術出版のモデル
- 学術論文への無料で制限のないオンライン利用を認めるという概念に立脚

オープン・アクセスを実現する方法

□ 「オープン・アクセス雑誌」の創刊

ゴールドの道

□ 「セルフアーカイビング」の実施

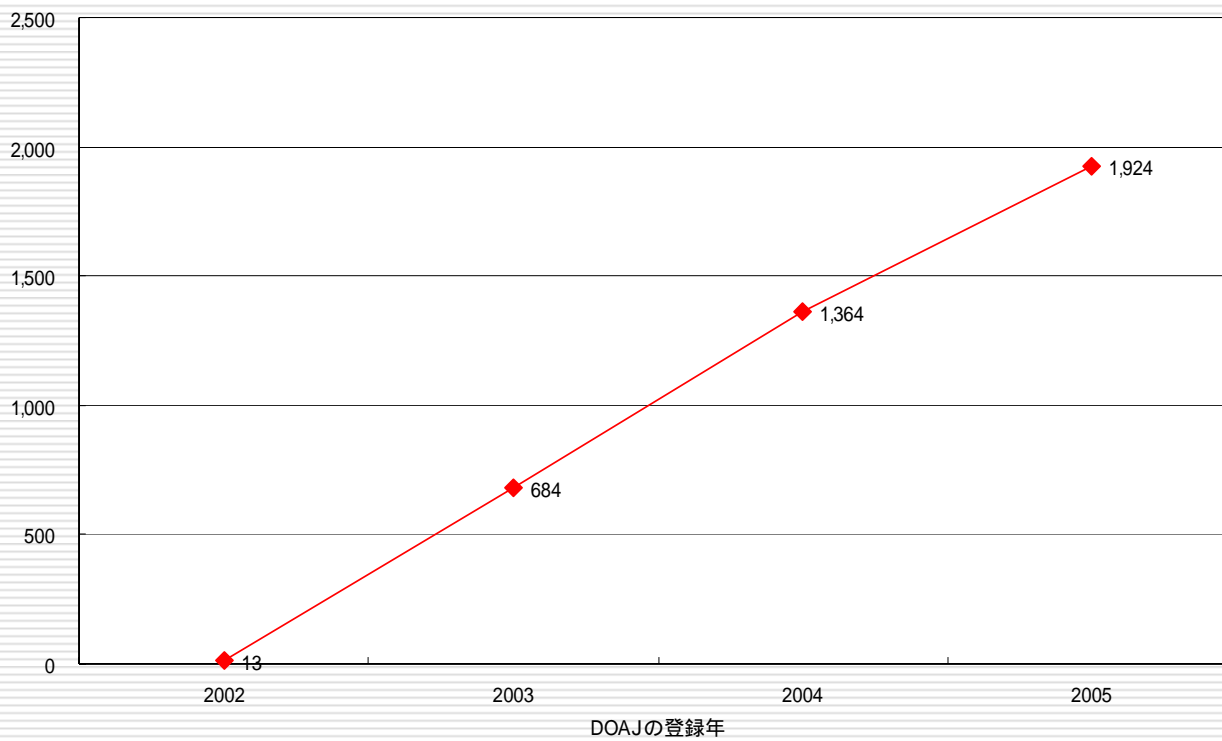
グリーンの道

オープン・アクセス雑誌とは

- 従来の購読料モデルではなく、著者支払いモデル、助成依存モデル等により、オンラインでの公開を前提とした雑誌
- 1,924タイトル(2005年11月23日現在)
Directory of Open Access Journals
(DOAJ)
<http://www.doaj.org/>

オープン・アクセス雑誌の増加

タイトル数



セルフアーカイビングとは

- 著者が執筆論文の原稿を無料で広範にウェブサイトから公開するもの
 - 著者自身のウェブサイト
 - e-print archive
 - 物理学, 数学, コンピュータ科学分野の電子的なプレプリント(査読前の論文)交換システム
 - 機関リポジトリ
 - 大学, 研究機関単位での研究成果等の収集, 蓄積, 提供システム

機関リポジトリの現状

- 542リポジトリ(2005年11月23日現在)

Institutional Archive Registry

<http://archives.eprints.org>

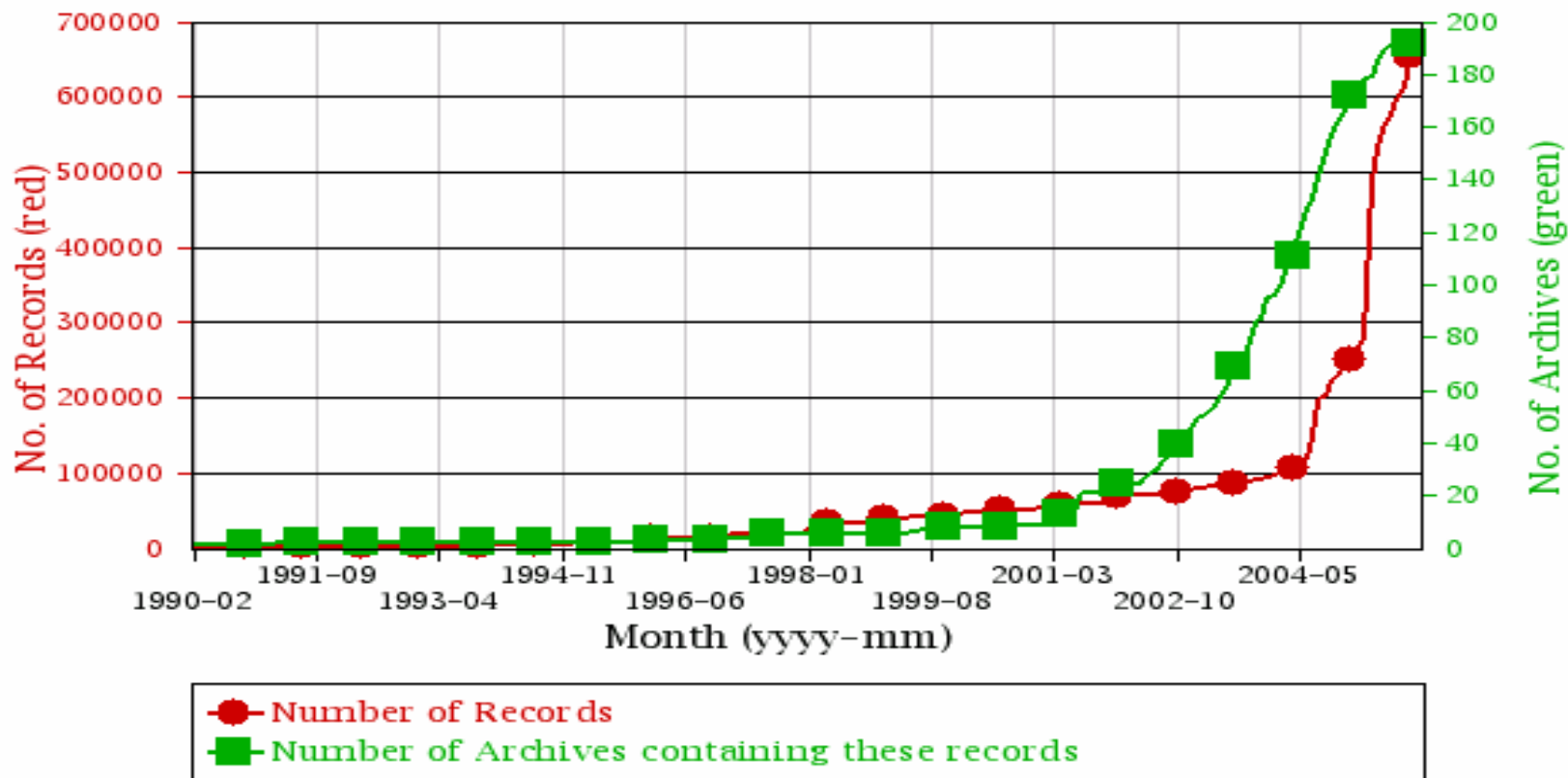
- 設置国

米国(153), 英国(67), ドイツ(51), カナダ(31), ブラジル(30), フランス(25), イタリア(20), オーストラリア(19), オランダ(17), スウェーデン(14), インド(13)...

機関リポジトリの成長

Growth of Institutional Archives and Contents

Generated by <http://archives.eprints.org/>



日本におけるオープン・アクセスの現状(1)

□ オープン・アクセス雑誌

- 最新号の論文本文を無料提供している**研究論文掲載誌**(**紀要を除く「雑誌記事索引」採録誌3,973タイトルを対象として調査**)

286タイトル

学会	43タイトル(15.0%)
研究機関	167タイトル(58.4%)
団体	20タイトル(7.0%)
企業	56タイトル(19.6%)

出典:上田修一. 日本の雑誌の電子化状況. 無料電子論文アーカイブの構築可能性から見た学術情報流通システムの将来. 平成17年5月. P.96-109

日本におけるオープン・アクセスの現状(2)

- 論文本文を無料で提供している大学紀要(2005.5?現在)
302タイトル

「研究紀要全文 - 全国版 - 」(名古屋大学附属図書館)

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/db/kiyou/index.html>

- J-STAGEで無料公開されている雑誌(2005.11.23現在)
196タイトル

http://www.jstage.jst.go.jp/browse/_journalist/-char/ja

オープン・アクセス雑誌は約800タイトル?

日本におけるオープン・アクセスの現状(3)

□ 機関リポジトリ

Institutional Archive Registry登録

6機関(千葉大学附属図書館, 北海道大学附属図書館, 北海道大学理学部数学科, Information Theory Archive of Japan (東京工業大学), 国立情報学研究所, 早稲田大学図書館)

79,875レコード

日本におけるオープン・アクセスの現状(4)

- 機関リポジトリを運営予定の国立大学
35大学
- 国立情報学研究所のCSI事業による機関リ
ポジトリ促進
18大学

機関リポジトリは揺籃期

日本におけるオープン・アクセスの課題(1)

- 学術情報流通のステークホルダーである研究者の理解が得られていない
- 日本の相当数の学会の財政基盤が脆弱で、学会誌の刊行にも科学研究費補助金を受けている
- 国際的な学術雑誌が少ない
- 学術雑誌を出版する商業出版社が発達しなかった

日本におけるオープン・アクセスの課題(2)

- 学会誌の電子ジャーナル出版が進んでいない
- 研究資金助成団体によるオープン・アクセスの義務化(機関リポジトリへの助成研究成果の提出と公開)が遅れている
- オープン・アクセスを支援する団体がない
- 国の政策レベルでオープン・アクセスが推進されていない

日本におけるオープン・アクセスの課題(3)

- 納税者が国の資金で行われている医療研究成果(難病を含む)のオープン・アクセス化を求める姿勢(運動)がない

看護学雑誌のオープン・アクセス(1)

- 看護学雑誌のILL利用増加の背景
 - 看護学分野の4年制大学の増加
 - 看護学分野の雑誌の発行部数が少数
 - 図書館における看護学雑誌の未整備

看護学雑誌のオープン・アクセス(2)

□ 看護学雑誌の利用

- 日本語文献の利用が多い
- 利用者が多様
- 著作権法の制約でILLによる雑誌論文の複写物が取り寄せできない機関に属する利用者がいる

看護学雑誌のオープン・アクセス(3)

□ 具体的方策

- 機関リポジトリによる看護学分野の論文の無料公開
- 看護学分野の雑誌の電子ジャーナル化と出版後一定期間を経過したバックファイルの無料公開
- 看護学分野の雑誌の遡及電子化とアーカイブの提供

看護学雑誌のオープン・アクセス(4)

□ 実施策

- 機関リポジトリがない機関のための中央リポジトリの設置
- 電子ジャーナル化、バックファイルの無料公開、遡及電子化のための出版社等との協議
- 個人が安価に電子ジャーナルを利用できる仕組みの用意